

ジャパン未来スカラシップ・プログラム 2020 参加者



大熊虹魅 八女筑後看護専門学校看護学科（福岡県立八女農業高等学校卒業）
虐待を受け、家庭に居場所をみつけれない中で、周囲に助けを求める決意をし、児童心理治療施設で暮らすことになった。居場所がないという苦しみを経験したからこそ、仲間の苦しみに寄り添い、互いを支え、今を生きる自分に感謝できるようになったと思う。将来は看護師になり、治療のサポートだけでなく、患者さん一人ひとりが抱える不安に寄り添い、支えられる存在になりたい。高校時代からビヨントゥモローの活動に参加し、多くの仲間に出会い、「辛い経験があったからこそ前に進める」ことを実感しており、これからも活動を通して視野を広げ、前進する糧をえていきたいと考えている。



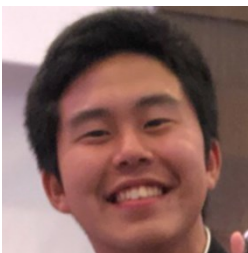
岡本楓 専修大学北上福祉教育専門学校保育科（岩手県立一関工業高等学校卒業）
家庭の経済的な事情から、将来の自分の夢については口をつぐみ、高校卒業後は就職すると考えていたが、児童養護施設に暮らすようになり、保育士になるという夢を叶えるために進学することを決意した。将来は児童養護施設で働き、様々な事情で入所している子どもたちの支えとなり、自立を助けられる仕事をしたい。これまで本心を言うことなく塞ぎこむことが多かったが、ビヨントゥモローの活動に参加し、理解しあい、共感できる仲間と出会い、多面的で柔軟な考え方を身に付けたいと考えている。そして自分の苦しかった過去をこれからの未来にむけて躍進を遂げるための糧にしていきたい。



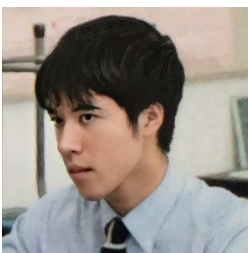
砂川麗 静岡福祉大学社会福祉学部健康福祉学科（静岡県立富士高等学校卒業）
中学時代に、母との別れ、祖母との死別、自身も犯罪に巻き込まれるなど苦難の連続を経験した。しかしそのような経験を通して、自分の知らない苦しみを抱えた人々がいることに気づき、そういった人々の支えになることを願うようになった。大学に進学して福祉を学び、将来は、社会福祉士として多角的に人と関わり気持ちを共有することが夢。これまで他者の悲しみや辛さを本当に自分のことのように考えることはできなかったと思うが、ビヨントゥモローに参加することで、色々な考えの人がいることを知り、知らなかった気持ちを知り、様々な理由で苦しんでいる人を助けられるようになりたい。



高澤ありさ 明治学院大学文学部英文学科（北越高等学校卒業）
両親が離婚し、経済的な困難や周囲からのいじめを経験したりもしたが、後になって、そのような体験を打ち明けることで他者の心に共感し、同じような経験をしている友達に寄り添うことができることに気づいた。高校時代、学校代表として米国に1年間留学するというチャンスに恵まれ、現地で必死に英語習得に努め、また世界には多様なバックグラウンドを持っている人があることを知る機会となった。将来は、外交やグローバルビジネスなどの領域で活躍することを志しており、ビヨントゥモローの活動への参加を通して海外への視野を広げ、自分ができることを探していきたいと考えている。



坪原祐介 山口大学国際総合科学部国際総合科学科（福岡県立小倉南高等学校卒業）
中学生の時に父を亡くし、母子家庭となり経済的に苦しい中、国際協力に強い関心を持ち、オーストラリア留学を決意。仕事をかけもちして費用を捻出してくれるブラジル人の母を支えるべく家事を手伝い、また語学力の向上のための努力を重ねた。留学を通して、海外で子どもたちのためにできることがあるのではないかと考え始め、将来は、発展途上国の公衆衛生や経済格差の改善に貢献することが夢。ビヨントゥモローに参加することで、海外経験を積み、国際貢献できる人材として、問題の解決策を見出せるようになりたいと考えている。



永久ゆう ロンドン大学キングス校 Natural & Mathematical Sciences Department of Physics: physics with Theoretical 進学予定（英数学館高等学校卒業）
父親を早くに亡くし経済的に厳しい中で、自分が夢を追うことが家族に負担をかけるという負い目があったが、理論物理学者になるという夢を叶え活躍している姿を見ることが家族や亡くなった父へのプレゼントになると考えるようになった。海外の大学へ進学することを決意し、高校時代には、高度な理論物理学を独学しつつ、英語力の向上に努めた。将来は米国で博士号を取得し、理論物理学の発展に寄与すると同時に、世界中の学生たちに理論物理学の魅力を伝えることが夢。ビヨントゥモローの活動を通して、活躍するリーダーたちと交流し、夢実現へのプロセスを具体化していきたい。



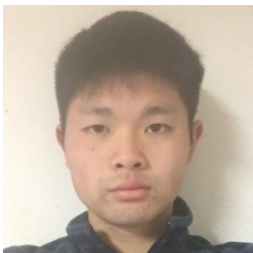
中村陽樹 京都大学医学部人間健康科学科（奈良女子大学附属中等教育学校卒業）
中学生の時に父を癌で亡くし、もっと早く発見できていたら父は生きていたかもしれないというやるせない気持ちから、疾病を早期発見できる社会システムの構築を志し、医療工学の道に進むことを決意。父のような人を救い、自分のように悲しむ人を減らすことが夢になった。地理的環境や家庭環境で恩恵に格差が生まれる医療の現状を鑑み、情報技術の発展と共に「誰もが」医療の恩恵を受けられる状況をつくりたいと考えている。ビヨンドトゥモローの活動で様々な環境で育った仲間たちと語り合うことで自分が何をすべきかを見極め、日本の未来の医療を担うリーダーとなることを願っている。



日高斗馬 北九州市立大学地域創生学群地域創生学類（鹿児島県立種子島中央高等学校卒業）
母子家庭に育ち、経済的に苦しい中、夢をあきらめなければならぬこともあったが、自分が育った種子島の活性化に取り組み、地域活性化の手法を日本全国に広めるという夢を叶えるべく、大学に進学することを希望するようになった。金銭的に苦しい中で夢を応援してくれた母、そして種子島に住む人々への恩返しのためにも、進学を実現させ、地域創生について専門的に学ぶことを決意。ビヨンドトゥモローの活動に参加し、日本全国から集まる仲間と切磋琢磨し、また海外のプログラムを通して日本の地域活性化のためのアイデアを考え、自分の夢の実現につなげていきたい。



待鳥芽菜 活水女子大学看護学部看護学科（福岡県立三池高等学校卒業）
小学生の時に父を亡くした経験から、人の命に携わり、生と死に向き合う看護師になることを決意。以来、病院のボランティアや看護体験に参加していく中で、国境なき医師団に参加したいという新たな夢も生まれた。父の死は辛い体験だったが、命の尊さを教えてくれ、大きな夢を与えてくれたと思っている。経済的に苦しく、進学をあきらめて就職すべきではないかと何度も思ったが、高度な技術、国際的な看護を学べる大学への進学を諦めたくないと考えた。ビヨンドトゥモローに参加することで、患者さんの心に寄り添い、痛みを分かち合える共感力ある看護師像に近づけることを期待している。



渡邊明大 羽衣国際大学現代社会学部現代社会学科（愛媛県立新居浜工業高等学校卒業）
家庭で辛い思いをしていたところを通報により保護され、児童養護施設で暮らした。高校を卒業後は就職すると思っていた時期もあったが、「優しく、困っている人を助けられる人になりたい」という目標の実現のために進学を決意。将来は、警察官や児童相談所の職員、福祉に携わる公務員などの仕事に就くことを希望しており、児童養護施設で6年以上を過ごした経験の中で応援してくれた人々に恩返しができるよう、大学生活に取り組みたいと考えている。ビヨンドトゥモローへの参加を通じて、視野を広げ、多くの友人を得て、自身の辛い経験を強みに変え、前に進んでいきたいと思う。